

近江八幡市

第16号 令和7年3月発行

青少年育成市民会議だより

〒523-8501 近江八幡市桜宮町236番地

近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課内 電話(0748)36-5533 Fax(0748)36-5565

近江八幡市青少年育成市民会議とは

青少年の健全な育成をめざす市民運動の推進母体として、昭和44年2月1日に設立されました。

市民が心身ともに健全な青少年を育成する責務を有するとともに、青少年もまた次代を担うものとしての誇りと使命を自覚し、若い力を自ら向上させることに努めるよう、市民会議は「家庭・学校・地域」において、関係団体はもとより、市民各層の人々と相たずさえ、広く市民の総意を結集して青少年健全育成市民運動を推進しています。

青少年育成市民会議 総会

令和6年度の総会は5月23日(木)市総合福祉センターにて開催しました。

近江八幡警察署生活安全課長より「犯罪と少年非行のあらまし」についてお話をいただき、令和5年度事業報告・収支決算(会計監査)及び令和6年度の役員改正及び令和6年度事業計画・予算案の承認をいただきました。

滋賀県民総あいさつ運動感謝状受賞者について

令和6年
5月15日(水)
開催

長年にわたりあいさつ運動に取り組んでおられる

下記の2名の方が滋賀県青少年育成県民会議児玉会長から感謝状が授与されました。(敬称略)

顕彰者名 藤野 勇

活動内容

幼児・児童・生徒の健全育成の為、毎月1日と15日の朝に、老蘇小学校・老蘇こども園の校門前・門扉前で登校登園してくる子どもたちにあいさつを続けている。また、年間8回、安土中学校・安土のはな保育園の昇降口前で登校登園してくる子どもたちにもあいさつを続けている。

顕彰者名 河野 富一

活動内容

児童の健全育成の為、老蘇小学校の登校日の朝に、また、集団下校日(毎週水曜日・行事日・夏休み・冬休みの前の日、始業日)の下校時刻に、老蘇コミュニティセンター東側の交差点に立ち、登下校する子どもたちが安全に信号を渡れるように交通誘導を行うとともに、あいさつを続けている。

目次

青少年育成市民会議 総会、「県民総あいさつ運動」顕彰	1
近江八幡市「伝えよう！熱い想い2024」、中学生広場	2
及び県民大会報告	
滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場	3~7
啓発活動	8
地域との連携	9
青少年育成市民会議 大会	10
青少年市民会議顕彰・青少年健全育成標語表彰	11
賛助会入会のお祝い	12



みんなの安心・安全を見守る

ミマモンくん

ひとりで悩んでいませんか？
まずは…
わがものどうぶつまぐち
子ども・若者相談窓口まで



6月15日(土)開催

近江八幡市

「伝えよう！熱い思い2024」

市内中学生の意見発表や部活動の発表を通して、中学生を応援し、理解や共感を深める機会としています。

また、滋賀県中学生広場「私の思い2024」へ推薦する意見発表作文の選考も兼ねて毎年開催しています。



司会 苗村 璃士さん 八幡東中学校3年
小玉 芽依さん 八幡東中学校3年



中学生広場発表者（発表順）

小嶋 大晴さん	八幡西中学校 2年	当たり前の大切さ
河野 陽音さん	八幡東中学校 2年	願い
苗村 美穂さん	安土中学校 3年	チャンスの使い方
岡田 美空さん	八幡中学校 3年	この時代を生きる
福岡 周さん	近江兄弟社中学校 2年	みんなでたすき運動

8月21日(土)開催

滋賀県第27回中学生広場

「私の思い2024」県広場

意見発表 近江八幡市代表

八幡西中学校 2年

小嶋 大晴さん

「当たり前の大切さ」

優良賞



令和6年度 滋賀県青少年育成県民大会報告

11月9日(土)開催

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」に関する
絵画ポスター生徒(中学生)の部 入賞作品

奨励賞

八幡中学校 1年 深谷 明莉さん
「家族といると気分が晴れる」



「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」に関する
作文入賞者

最優秀賞

八幡小学校 4年生 松井 奏さん
作文の題名「ぼくにできること」



奨励賞

八幡小学校 2年生 松井 律さん
作文の題名「おにいちゃんは大へん」

滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場

優良賞



「当たり前の大切さ」

八幡西中学校 2年

こじま たいせい
小嶋 大晴

「大晴！速くお風呂から上がってきて！今からすぐに、じいじのいる病院に行くで！」突然、お風呂の外から、母の切羽詰まった大きな声が聞こえました。

今年の4月28日の午後7時頃、僕はバスケットボール部の県外遠征から帰ってきて疲れをいやすためにゆっくりと湯舟に浸かっていました。慌てた母の声を聞いて、最初は何のことかわからなかったけれど、とにかく急がなければならないという事だけは理解しました。祖母、両親、姉、僕、家にいた家族全員が病院に向かう車内では、皆、終始無言で、5分もかからない距離なのに、時間的にも距離的にも、とても長く感じました。

祖父の入院している病室の前までたどり着いた時、部屋の中から慌ただしい機械の触れる音や呼びかけ合う人達の声が聞こえてきて、僕はドア1枚の向こうに恐れていたことが現実になってしまっていることを、思い知らされました。病院のドアを開けた瞬間、ベッドに横たわり、人工呼吸器をつけながら、荒い息で必死に呼吸をする変わり果てた祖父の姿が目に入りました。僕は、思わず祖父の横で手を握って「おじいちゃん！おじいちゃん！」と何度も何度も必死に声をかけていました。それ以外のことは、今でも思い出そうとしても全く思い出せません。残念ながら、祖父は、日が変わって30分ほど経ち、祖母、両親、兄、姉、僕の家族全員に看取られながら亡くなってしまいました。僕は生まれて初めて、身近な人の死を体験しました。

僕は、生まれた時から祖父と同居していたので、「祖父が家にいる」のは、僕にとっては当たり前でした。小学校から家に帰ってきた時には、いつでも1番先に、にこやかな笑顔で「大晴、おかえり。」と言ってくれました。また、趣味で詩吟の師匠をしていた祖父の毎日練習をする声が家中に朗々と響くのが当たり前のことでした。僕が中学生になってからは、学習や部活動、学習塾、クラブチームの活動で、自由に使

える時間が取れなくなり、祖父と話をする機会が急激に減っていきました。祖父が亡くなってしまった今思うと「もっと気にかけて、話しておけばよかった」と後悔ばかりしています。

祖父が亡くなってから1週間ほど経って、僕は、祖母、父と一緒に、祖父が入院する直前まで大切に世話をしていた畑を見に行きました。そこには、スナップエンドウやキヌサヤなどの豆類がびっしりと実っていました。タマネギも土の中から顔をのぞかせていました。僕達はそれらを一つ一つ野菜切り鋏で切り取ったり掘り起こしたりして収穫しました。大量の収穫物だったので、大変手間がかかりました。しかし、新鮮な野菜を収穫できたのは、雑草を抜いたり、土に肥料をまいたり、水やりを欠かさなかったりの祖父の惜しみない日々の世話や苦勞があったからです。そのことを考えると、祖父への感謝の気持ちがこみ上げてきて目に涙があふれてきました。その気持ちと同時に、今まであって当たり前のように祖父が育ててくれていた野菜を毎日食べていたのに、祖父のしてくれていたことに気がつかなかった自分が情けなくなりました。

毎日当たり前にくれる存在や、当たり前で過ごしている日常生活は、実は一つ一つが、前向きな心がけや地道な努力によって成り立っている特別なものだということを、実感しました。先のことは誰にもわからないし当たり前だと思っていることも、いつかはそうではなくなる時が来ることを、僕は思い知らされました。その大切なことを僕に教えてくれた祖父に、心から感謝しています。

毎日の生活の中で起こる一つ一つの出来事、家族、友人、自分の身の周りの人達などのすべてが自分を形作り、支えてくれていることを常に意識して、今後生きていきたいです。



滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場



「願い」

八幡東中学校 2年

かわの はると
河野 陽音

私はかつて、決して忘れることのできない過ちを犯してしまいました。そして、今もそのことを、心から後悔しています。

小学4年生の夏から、親の仕事の関係で、私たち家族はドイツのシュトゥットガルトという街に住んでおり、私はそこで、インターナショナルスクールという、さまざまな国の人が通う学校に行っていました。

学校に通う前は、うまく生活していくことができるのか、友達ができるのか、とても不安でした。ですが、私と同じ日本人のユウトというクラスメイトが話しかけてきてくれてその不安は一気に和らぎました。そういった仲間がいてくれたこともあり、私は順調に学校になじんで、楽しい学校生活を過ごすことができていました。

そんなときに、とある出来事が起こりました。初めての移動教室。授業が始まる直前の時間でした。私が椅子に座ろうとすると、同じ日本人のユウトが、「その椅子は黒人が座った椅子だからやめときな。汚いし臭いよ。」と私に言うのです。私は、いつもその友達に助けられていて、心から彼を信頼していました。だから、私は疑問に感じることもなく、彼の言うことを聞いて、私の中にも「汚い」「嫌だな」という感情が芽生え、椅子を違うものと取りかえました。その後も、私はその黒人のクラスメイトと話したことさえもないのに、忌み嫌って避けていました。そのときの私は、幼さゆえ、これが人種差別であるとは思ってもせず、当たり前のことなのだと考えていました。信頼している友達のユウトがそう言うから、私も黒人は避けるべき対象だと思い込んでいたのです。

そんなことがあってから、早くも1年が経ちました。私の学校には、さまざまな国から来た人が在籍しており、転入・転校は当たり前のことで、1年を過ごす、それがすっかり日常になっていました。そんなとき、アルーシュという1人

の転校生が私たちの学校にやってきました。その人も肌の色が黒く、私は最初、彼と関わることに抵抗を感じていました。

あるとき、私は休み時間にアメリカ人の友達と鬼ごっこをして遊んでいたのですが、そこにアルーシュも仲間に加わることになりました。私は最初、彼と接することに抵抗がありました。1年前に聞いた「汚い」「臭い」という言葉。悪気のない人種差別。それが僕の心の奥底に巣くっており、当たり前になってしまっていたのです。

しかし、アルーシュは私の後ろめたい思いをよそに、積極的に話しかけてきてくれたのです。さまざまな遊びをし、同じ時間を過ごすうちに、私たちの仲はどんどん深まっていきました。いつしか、私は黒人に対する抵抗感がなくなっていました。アルーシュとの出会いを通じて、肌の色は関係なく、その人の中身を見て接することができるようになったのです。

この経験を通して、私は見た目や国籍だけで人を判断するのは間違っており、とても失礼であるということ、そして、その人の中身を見るべきだということを学びました。あのときの私がもしアルーシュにさらにひどい差別やいじめなどをしていたらと思うと、自分を許せない気持ちになります。私はこの自分自身の過ちを通じて、無自覚な人種差別の恐ろしさと、それによって傷つく人たちのつらさを実感することができ、人として、少しでも成長できたような気がしています。

これから生きていく中で、私はまた、さまざまな差別と出会うかもしれません。そんなとき、真っ先にその差別を止めることができるように、日頃から私自身がこの問題について考えていこうと思います。それから、今この場にいる皆さん、そしてこの場にいない皆さんも、人種差別に目を向けて真剣に考えてほしい。心から、そう願っています。



滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場



「チャンスの使い方」

安土中学校 3年

なむら みほ
苗村 美穂

生きている中で、どんな時に自分を変える「チャンス」に巡り合えるか。皆さんは考えたことがありますか。

子どもの頃から何かスポーツや習い事に夢中に取り組んだ人が、色々な場面でチャンスを生かして活躍したことを聞いたとしても、そのような経験のない私にとっては、いつも無縁のものだと思っていました。

私は見てのとおり人より背が高い方です。小学生の時には男の子より頭一つ分ほど高かったせいで、からかわれることが少なくありませんでした。そして、いつしかそれがコンプレックスとして、心にモヤモヤ感を抱くようになりました。

そんな時、人から勧められ出会ったスポーツがバレーボールでした。最初は上手くボールを扱うことができずに戸惑うことは度々でした。でも練習を重ねるうちに自分の身長がプレーに生かされ、バレーボールの楽しさや魅力を感じるようになりました。

「君の身長が一番の才能だ」と中学校の顧問の先生から言われ、もしかしたらバレーボールなら私を輝かせてくれるのではないかと。私がずっと抱えてきたコンプレックスが武器としてプレーに生かせるのではないかと考えるようになりました。

そのうち、県内の強化練習会から声が掛かりました。その頃はまだプレーに自信が持てず、参加をためらっていましたが、心の中には「参加しないのはもったいない」という気持ちもありました。「参加するからには一生懸命やろう」と。しかし、技術の差は歴然でしたが、再び、その冬に全国長身選手発掘育成合宿に参加する機会を得ることができました。そこは、経験したことのない大規模な合宿で、プレッシャーに押しつぶされそうでした。強豪校として名を馳せた中学校からは何人もの選手が集まっていました。初日、誰

にも話しかけられず、ぼつんと一人。レベルの違い過ぎる人たちとする高度な練習を想像しただけで、怖くて食事も喉を通りませんでした。少しずつ環境に慣れ、話せる人も1人、2人と増えても、夜は極度の疲れにも関わらず、不安で眠れませんでした。

合宿中、話せるようになった子に「帰りたい」と弱音を吐いたことがありました。その子も中学校からバレーボールを始めたらしくきつと不安な気持ちを分かち合えると思ったからです。しかし、期待した励ましや慰めの言葉は返ってきませんでした。

「なんで？こんなチャンス2度とないかもしれないよ。頑張らないと損じゃん。」

その子のためらうことなく発せられた言葉からは、チャンスを無駄にしたくないという強い決意が伝わってきました。私はこの言葉に勇気づけられ、貴重なチャンスを生かさないという選択はないと覚悟を決めることができました。

翌日からは、朝には「おはよう」、練習中には「ナイス」と、自分でも信じられないほどの声が出ていました。すると、相手から話しかけられるようになりました。トップレベルの選手たちと練習時間と空間を共有できたことは、かけがえない貴重な経験でした。

“チャンス”は、誰にでもあるものです。決して無縁のものではありません。巡ってきた機会を逃さない、プラス思考で捉えれば、上手く乗り越えられることを実感しました。

しかし、私は自分の生き方に後悔したくはありません。後悔する方がもっと苦しみを背負うことになるからです。“チャンス”をどのように生かすのかを考えながら、これからの人生を前向きに生きていきたいと思います。



滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場



「この時代を生きる」

八幡中学校 3年

おかだ みそら

岡田 美空

「ネット社会。」本当に便利な世の中です。学校生活においても、私生活においても、ネットを使わない日はありません。

学校生活では、タブレットを使って調べ物をしたり、クラスで情報を共有したり、課題を提出したりと、教科書やノートに並び大活躍です。家に帰れば、手洗い・うがい・スマホチェックが私のルーティン。趣味のアニメ鑑賞にもネットは必須です。

つまり、ネットがない生活を送るということは、私には不可能なのです。

ですが、不思議なことに、こんなにもお世話になっている、私には欠かすことのできないネットが、面倒で無くなればいいと思うこともあります。私は人とコミュニケーションをとることが苦手な方なので、話を広げて続ける必要もなく、返事をするまでに考える時間があるLINEは、とても助かります。同じクラスで毎日会うけれど、実際話したことがない人でも、LINEだと会話ができます。母とこんな話をしていた時、「何で返信するのにそんなに時間かかるの？直接話せばすぐ済む会話やん。」「実際会って喋らへんのになんてLINEだけ話すなんて変な時代！」と言われました。「確かに。」と思った自分がいました。LINEは便利な時ももちろんあるけど返信するにも誤解やトラブルにならないようにと余計に考えすぎて時間が経っていたり、LINEで話せるのに実際あいさつすら直接できていないことに母に言われて初めて違和感を覚えました。いつでも連絡がとれることはありがたいですが、家にいても気が付けば人との繋がりを意識してSNSに反応しなければならない義務感や知りたくないことまで知ってしまうなど、直接関わってなくても勝手に変な人間関係を作ってしまう環境が怖いです。

コロナの影響もあり、マスク生活が長かったせいで、人との会話も減り、人と人同士のコミュニケーションが取りづらい中で、ネット環境でのコミュニケーションがどんどん普及しました。私も小学4年生でコロナ禍を迎え、当時はまだスマホを持っていませんでした。しかし、学校から借し出されたタブレットで、自宅学習に取り組めたことが便利だったことを覚えています。

このように、ネットが当たり前になった私たちの生活の一部になった今、コミュニケーション能力を身に付けるにはどうしたら良いのか。まず私は、毎日会っている家族やクラスメイトなど人と人同士で関われる場を大切にしたいです。そして、自分の考えやプライベートをSNSで発信するのではなく、直接、自分の言葉で発信していけるようになりたいです。まずは、あいさつからコミュニケーション目指して頑張ります。

昔には昔の時代の良さがあり、今は今の時代の良さがたくさんある。けれど淋しいことに今の時代への「生きづらさ」を感じている人がいるという話をよく耳にします。「ネットではしゃべれるけれど、顔を合わせてしゃべることは苦手。」という人もいると聞いたことがあります。私自身もネットの存在をわずらわしく思うこともあります。しかし、私は生きづらさを時代のせいにはしたくはないです。何事も、自分自身の感じ方、捉え方次第なんだと思います。

今の時代にネットは必要です。私はこのネット社会を生きているし、生きて行かなければいけません。この時代のルールとマナーを守りながら自分を日々アップデートし続けていけたらいいと思います。



滋賀県第27回中学生広場「私の思い2024」県広場



「みんなでたすき運動」

近江兄弟社中学校 2年

ふくおか

あまね

福岡

周

私は信号機がある横断歩道で、歩行者側の信号が青になってもすぐには渡れません。中学生になった今も毎朝渡る同じ横断歩道で小学生の時にあったことを思い出します。

集団で下校していた時のことです。私はみんなから少し遅れてしまい、歩行者側の信号が青だったことを確認して友達を追いかけるように横断歩道に入りました。次の瞬間、目の前に車がありました。おそらく運転手は児童全員が渡り切ったと思って発進したところに私が飛び出してきたのだと思います。とっさに大きく一步ジャンプをして事故にならずにすみましたが怖い思いをしました。「車から私(歩行者)は見えているものだ」と過信していましたが、急いでも一旦立ち止まって手をあげて、渡る意思表示をすれば良かったと後悔しました。中学生になってからの下校の時間帯は、交通量も多くあたりが薄暗くなりました。私は手にライトを持つようにしました。しかし、ライトは光の方向が正面でないと効果がありません。横や後ろから来る車には私の持つライトの光は届きません。今、私がしている安全対策は残念ながら不十分でした。

安全対策を改めて考えた時、まず初めに私は、母が運転する車に私も運転手になったつもりで車の中から歩行者や自転車がどのように見えるのかを観察しました。そこで感じたことは、昼間は比較的良好に見える歩行者も、夜間は見えにくいことでした。車が歩行者にずいぶん近づかないと見えにくいことがわかりました。特に制服姿の歩行者は車のライトがあたっても、白い靴が見える程度でした。一方、公園近くで夜間ウォーキングをしている人は、肩からたすき掛けの反射板をしていました。車のライトに反射して、その動きがよく見えました。私は運転手目線で観察したことにより、運転者へ自分が道路上にいることをいち早く知らせる事で、自身の安全を確保する、交通事故を減らすことができると確信しました。反射板は昼間でも白く蛍光なので、制服

の上からでもよく見えます。

私の学校がある近江八幡市の令和5年度の交通事故発生件数を調べました。1年間で391件の交通事故が発生し、その内、歩行者事故は28件、夜間事故は54件、交差点事故は78件と高い事故発生率だったことを知り驚きました。また、滋賀県全域で令和5年に行われた運動「滋賀県交通安全県民総ぐるみ運動」が実施されたことも知りました。交通安全の取り組みの実施要綱の中には、夕暮れ時から夜間における明るい服装や反射材着用の促進が挙げられており、すでに啓発されていました。県での取り組みには高齢者及び子どもを対象にされており、歩行者、自転車に対する事故は含まれていませんでした。

私は将来、免許を取って安全に運転をしたいです。運転者の命を守るものはシートベルトのように、歩行者の命が奪われないように守る反射板のたすきをする「みんなでたすき運動」を推奨したいです。ヘルメット着用の努力義務が実施されたことに加えて、歩行者が反射板たすきをすることが広まれば、昼夜問わず自動車と歩行者また自転車の事故は本当に減ると、私は確信しています。ウォーキングの人も自動車の人も制服のブレザーの上からもみんなが反射板たすきにしてみる実験をしてみてもはどうでしょうか。「みんなでたすき運動」を近江八幡市青年育成市民会議に提案します。この運動を実施して、事故件数が減り、死者や負傷者がいなくなることを期待します。

<出典>滋賀県の令和5年度の交通事故統計

(滋賀県警察本部ホームページ・あなたの街の交通事故発生地別の交通事故表より)



I

啓発活動

①

青少年非行・被害防止滋賀県強調月間(令和6年7月1日～31日)

7月の強調月間事業にあわせて7月11日(木)に、各種団体から総勢22名が参加し、J R 近江八幡駅・J R 篠原駅・J R 安土駅で通学、通勤時間にあわせて啓発活動を行いました。



②

滋賀県子ども・若者育成支援強調月間(令和6年11月1日～30日)

11月の強調月間事業にあわせて11月1日(水)に、近江八幡警察署をはじめ各種団体の総勢32名が、大型量販店内を巡回し、J R 近江八幡駅(北口・南口)で啓発活動を行いました。



II

地域との連携

青少年関係団体等のご協力のもと、市民会議及び、学区民会議の活動として、市内の小・中学校を訪問し「あいさつ運動」を展開しています。今年度は、6月28日(金)・7月4日(木)・5日(金)に「愛の学校訪問」を実施しました。

「あいさつは心と心をつなぎます」を合言葉に関係機関、団体等の協力のもと行っています。



III

青少年にふさわしい環境づくり

①

白ポスト設置(有害図書・DVD回収)

有害図書等が家庭内で青少年の目に触れることを防ぐため、市内各駅等に白ポストを設置し回収しています。近江八幡・竜王少年センターと連携して行っています。

白ポスト回収作業(毎月少年センター職員と青少年育成推進員の2名で実施) ※令和6年度は4月～12月集計

年 度	令和6年度 (2024年)	令和5年度 (2023年)	令和4年度 (2022年)	令和3年度 (2021年)	令和2年度 (2020年)
回収総数(点)	235	424	290	662	545
有害図書(冊)	52	71	60	203	306
有害DVD(枚)	146	328	157	409	174
有害ビデオテープ(本)	1	0	6	8	13
その他雑誌(点)	36	25	67	42	52



②

青少年健全育成啓発看板の設置



場所:近江八幡駅北口(ポケットパーク内)



場所:近江八幡駅南口

近江八幡市青少年育成市民大会

12月7日（土）に近江八幡市勤労者福祉センター（アクティ近江八幡）で開催しました。八幡工業高等学校ラグビー部の皆さんによるオープニングに始まり、第1部は開会行事、市民会議顕彰に青少年育成指導者（個人・団体）、青少年健全育成標語の最優秀賞および優秀賞の表彰をしました。第2部は講話「更生保護活動の魅力」を堀池修造さんに、よし笛演奏を近藤ゆみ子さんにいただきました。



オープニング

八幡工業高等学校ラグビー部の
皆さん

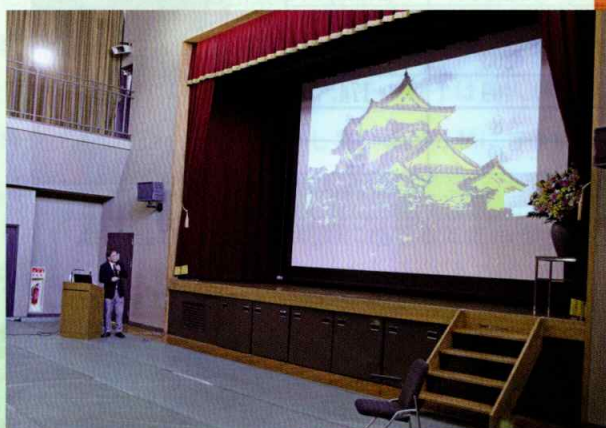
開会行事



講話 「更生保護活動の魅力」

堀池 修造 さん

（滋賀県保護司会連合会 事務局長）



よし笛演奏

近藤 ゆみ子 さん

（日本よし笛協会会長・よし笛演奏者・講師）



青少年育成市民会議顕彰

地域において社会の模範となるような善行や活動を地道に積み重ねている青少年・青少年団体、または青少年を健全に育成するため長年にわたり、青少年の育成・指導に貢献し他の模範となる方の努力を讃え表彰しています。



★青少年育成指導者(個人)

お名前(敬称略)	推薦団体	主な活動
丹波 公男	安土学区まちづくり協議会	子ども安全リーダー・子ども見守り隊
道端 滋	金田小学校	芝生を育て守る会メンバーとして継続的に活動
中江 義一	金田小学校	絵本読み聞かせボランティア・子ども見守り活動
小嶋 幸	八幡学区青少年健全育成会議	八幡学区子ども体験活動協議会サポーター
岡田 真喜子	岡山区青少年育成学区民会議	子ども体験活動協議会 専門部 副部長
西井 久美子	岡山区青少年育成学区民会議	子ども体験活動協議会 専門部 副部長

★青少年育成指導者(団体)

お名前(敬称略)	推薦団体	主な活動
日吉野 町 スクールガード	桐原学区協働まちづくり協議会	児童の通学時に交通安全、防犯を目的に活動を実施
農事組合法人 サン・燦ファーム	老蘇小学校	児童への体験活動

青少年健全育成標語表彰

市内小・中学校の児童・生徒を対象に募集したところ、小学生の部1174点、中学生の部883点の応募があり、審査の結果16点の入賞作品を選考しました。

最優秀賞作品・優秀賞作品は12月7日(土)開催の青少年育成市民大会において表彰し、入選作品は各学校で表彰して頂きました。

優秀作品8点は市民啓発用のぼり旗として作成し、市内小中学校に配布し、啓発活動に活用していただいています。



★小学生の部

賞	題名	学校名	学年	氏名(敬称略)
最優秀賞	その言葉 自分に向けても 言えますか	桐原	6年	大橋 樹利亞
優秀賞	伝えよう 自分の気持ち はっきりと	桐原	5年	岡谷 奏海
優秀賞	思いやり みんなの笑顔の 第一歩	沖島	5年	池内 悠
優秀賞	ありがとう ごめんなさいは 自分から	島	6年	中村 璃香
入賞	不安なとき 心にひびく やさしい声	岡山	6年	二見 優衣
入賞	あたりまえを 毎日だいに 幸せに	岡山	5年	佐々木 優衣
入賞	「ありがとう」 その一言で つながる心	岡山	6年	安藤 咲菜
入賞	生きている この瞬間を 大切に	安土	6年	田中 愛紗

★中学生の部

賞	題名	学校名	学年	氏名(敬称略)
最優秀賞	スマホより 目を見て君と 話したい	八幡西	3年	小泉 優葵
優秀賞	作ろうよ その人らしさが 光る場所	安土	1年	向坂 篤人
優秀賞	ありがとう いつも心に 感謝の気持ち	兄弟社	1年	岩佐 向日葵
優秀賞	つらいとき かかえこまずに はなそうよ	八幡西	1年	橋田 弥姫
入賞	大丈夫? 見ぬふりせずに 声かけよう	八幡東	1年	氏田 宗佑
入賞	ヘルメット みんなの命 守ります	八幡東	2年	奥野 壘斗
入賞	あいさつは されるの待たずに 自分から	八幡東	2年	門 映里奈
入賞	考えよう 言っていること 悪いこと	八幡東	2年	清田 小鈴

みなさまのご支援、ご協力ありがとうございます

令和6年度 賛助会 企業・団体一覧（順不同）

村井印刷	(株)MS LIFE	金田学区自治連合会
(株)ウメテツ建設	日本料理ひょうたんや	金剛寺町自治会
(株)とらわか	トータルファッションきたがわ	桐原学区協働まちづくり協議会
(株)大手建設	(株)サンエルフ	桐原学区自治連合会
(株)ZTV近江八幡放送局	(株)ダイゴ	馬淵学区自治連合会
(有)平尾硝子店	(株)サンキコー	北里学区江頭町自治会
滋賀工機	(株)安土産業	北里学区十王町自治会
(株)秋村組	(有)西村工務店	北里学区小田町自治会
広告美術 美十	ツジソト(株)	北里学区野村町自治会
(株)ニシケン	(株)フカオ	北里学区佐波江町自治会
(有)関西看板	やまもとでんき	北里学区水茎町自治会
(株)近江兄弟社	近江八幡教育会	北里学区丸の内町自治会
(株)栄畑瓦商店	八幡学区自治連合会	武佐学区まちづくり協議会
(株)日吉	八幡学区第14区自治会	武佐学区社会福祉協議会
グリーン近江農業協同組合八幡東支店	島学区まちづくり協議会	武佐学区自治連合会
(有)キタジマ和光堂	島学区大中町自治会	安土学区上豊浦区民57人
(株)小川組	島学区自治連合会	安土学区十七自治会
(株)カネ吉ヤマモトフーズ	岡山学区自治連合会	老蘇学区青少年育成学区民会議
(株)たねや	金田学区青少年育成学区民会議	個人22件

賛助会入会のお願い

次代を担う青少年が、心豊かでたくましく成長することはみんなの願いです。近江八幡市青少年育成市民会議では、青少年の非行防止、社会環境浄化、健全育成に取り組んでいます。

市民のみなさまに、ぜひとも賛助会員になっていただき、子どもたちのために本市の青少年健全育成活動を支えてくださいますよう、お願いいたします。

●賛助会費(年額)

個人	1口	500円から	団体	4口	2,000円から
自治会	4口	2,000円から	企業	6口	3,000円から

●納入方法について

納入方法につきましては、下記事務局まで、お問い合わせください。

<お問い合わせ先>

近江八幡市青少年育成市民会議 (事務局:近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課内)

〒523-8501 近江八幡市桜宮町236 TEL(0748)36-5533 FAX(0748)36-5565